

とよたが美肌通信

10月 7日

さくらいびり  
5才

7月号





今月号の表紙は  
きれいな虹が<sup>にじ</sup>

かかっているところに元気にお花が  
咲いていて、とても楽しそうに  
あそんでいる  
すてきな絵です 😊 ハートもいっぱい  
かわいらしいです ♡♡

おりがみが趣味で、ビーズ作りなど、  
女の子らしい事が好きなんですね！  
ムカ根園の  
たいこの練習や、歌を歌う事も  
得意な笑顔がかわいい女の子が  
かいてくださいました！

院長はじめスタッフ一同バリエリ感謝いたします！



詩や歌によくある様に、人生は道に置き換えられる。人生(道)はどこに向って行くのか、又続いて行くのかなんて(自分のことなのに)実際、誰にも分からないのです。従って将来(未来)への不安は全ての人に存在します。しかし、心術(心の持ち方)を変えれば、それもまた人生の面白さの一つであり、それはかりか人生の関を越えていく所にこそ醍醐味があると評する人もいる位です。

時に「よ・たち」にも論語の章句を書くことがありますか、私は数年前から自己流であるものの、論語を学ぶ様になりました。

今回は最近私が好きになった章句を示したいと思います。「朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり」。ある朝、人としての道がなんであるかを知ることが出来たなら、その日の夕方に死んでしまっても私はかまわない、という意味です。

この解釈の背景には孔子が不遇の戦乱の時代を生きてきたことが関係しています。

孔子は人の道とは何たるかを追求していくことを生涯のテーマとしていたはず”です。

もし誰かが孔子に、道とはこういうものだ”と教えてくれたとしたら人生の目的そのものがないなくなってしまう。つまり例えて言うならこういうことです。小学生に「あなたが30才になった時、こんな大人になっていて、こんな仕事をしていまして誰かが教えてくれたらどう思う？」と尋ねると、全員口を揃えて「つまらない」と答えます。同じ質問を中学生に聞くと「楽しいじゃん」となります。つまり、もし結果が分かっていたら危ないことや困難なことは避けられるかも灰口れませんが、思いがけない喜びや感動、目標を達成した時の感激には出合えないでしょう。先が分からないうからこそ面白いのが人生であり、自分で変えていったり自分で創り上げていくところに醍醐味があるのです。

「ロープウェイで来た人は登山家と同じ太陽を見ることは出来ない」。フランスの思想家アランの言葉である。この金言もまた、暗中进行模索しながら到達した者にのみ与えられた世界観であろう。 院長, 拝